

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あじさい
(ユニット名)	東 ユニット
所在地 (県・市町村名)	千葉県松戸市五香西5-3-14
記入者名 (管理者)	阿我妻 千恵
記入日	

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
理念に基づく運営						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人はそれぞれ違って当たり前であるという考えのもと、自由であるからこそ自立した生活ができるような理念を作り上げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入職者はもちろんカンファレンスや日々のケアの中でも理念の共有を重視しています。ケアの方向性で困る事があれば理念を振り返り入居者の思いが理念からずれていないか確認しています。		日々理念の実践を考え、取り組んでいきたいです。
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時や運営推進会議、状況報告の際に理念、ホームの考え方についてご理解頂いています。		ご家族には理解して頂けていると思います。今後は地域へどう発信するのかを考えていきたいです。
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出時に積極的に声をかけるようにしています。近隣の方の認識も深くなって、声をかけて頂ける事も多くなってきています。		施設が3階にある為、入りにくい環境ではありますが、イベント等を利用し気軽に訪ねられるようにしていきたいです。
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	クリーンデイ、夏祭り等の参加は定着しています。祭りの際等地域の方から親切にしています。買い物に利用しているスーパーの店員さん等いつも気にかけてくれます。		
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的に取り組んでいる内容はありません。		地域に貢献できることを町内会などと協議して考えていきたいです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義については理解しています。前回の改善点は出来る所から直しています。		前回の評価の際、改善できていない項目があるので少しずつ改善していきたいです。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組み状況に留まらず、毎回ご家族から意見を頂き運営内容に反映出来るように努めています。		会議内容の報告はこれからも続けて行きたいです。ご家族に会議の参加を働きかけ、多くの意見を吸い上げていきたいです。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営サービスにて不明な点はすぐに、市町村や包括支援センターに確認するようにしています。現状報告やアドバイスも頂いています。		今後も情報交換も含めアドバイス等頂けるようにしていきたいです。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方もおり、入居前後に必要と思われる方に関しては、その制度利用について紹介しています。		今後は職員内にも権利擁護等についての理解を深めていけるよう、学ぶ機会を設けていきたいです。(運営推進会議等利用し)
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内においてマニュアルを作成し、虐待防止に努めています。又カンファレンスの際に虐待に関する話し合いも行っています。		今後も全職員が虐待に関する知識を持つよう研修など行っていきたいです。
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に細かく説明し、疑問点に関しては契約後も随時説明するようにしています。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員やご家族を通じご本人の心情を伺ったりご意見箱を設置しその意見も反映しています。運営推進会議でもご意見を伺っています。		介護相談員の申請をしています。今秋に受け入れられる予定です。
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には体調、暮らしぶり金銭管理について細かく報告しています。あじさい便りでは写真、コメントを記載し報告しています。		あじさい便りをご家族より大変好評で、今後も更に力を入れていきたいです。
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部にも苦情の受付機関があることを説明しています。ご意見箱の設置、面会等、日常のご意見を伺い、運営に反映させています。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々意見をあげ話し合っており、反映するよう努めています。管理者も現場に入ることによって意見を吸い上げるようにしています。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の生活に合わせて、職員間で話し合い勤務体制を調整しています。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一年間、ほとんどスタッフの交代はなく、離職、入職の際は入居者様に伝え、コミュニケーションを充分に取れるよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じての育成するため、それに見合った研修、個々のレベルに合った研修に参加しています。		今後も内部、外部研修への参加、カンファレンスでのスキルアップを目指して行きたいです。
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在行っていません。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場の意見、要望を聞く会議を設けている。採用や職員の待遇相談も行っている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員と出来るだけ話をし、改善すべき点については改善できるように努めています。		更に働きやすい環境を目指して行きたいです。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接の際に出来るだけ時間をとりご本人のお話を良く伺っています。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初に相談にいらした時から、家族の立場に立ちお話をよく伺っています。入居者様の事のみならず、家族間での思いも受け止め理解するように努めています。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に見えた時から、これまでの状況を伺い、どんなサービスが適しているのか見極め、サービスの利用方法、申し込みの手順等お伝えしています		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学して頂きご本人に現在入居されている方や職員と話をして頂き安心出来るよう努めています。		ご本人、ご家族と相談し、なるべく双方納得の上、入居出来るように取り組んでいきたいです。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様、職員が共に過ごし、そこから学ぶ姿勢を大切にしています。個々の能力を見極め、発揮していただき、一緒に生活する人としての関係を築いています。		今後も色々なことを共に行いできることをまだまだ発見していきたいです。入居者様に対する固定観念から、スタッフサイドの決めつけ、やりすぎがないよう支援していきたいです。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、入居者様、職員も一緒に楽しめる企画を練り、準備から一緒に楽しんで頂いています。他愛ない事でもお互いに話をし、相談できる関係を築けるように努力しています。		今後もご家族と共に入居者様を支えていく関係作りに努め、協力、相談していきたいです。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係や双方の気持ちの理解に努め、互いに良い関係を築き、維持できるよう支援しています。		今後も疎遠になりがちなご家族には行事企画、会議などで面会のきっかけ作りをしていきたいです。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談、協力し、知人、友人の面会、外出など、馴染みの関係を大切にしています。		個々の馴染みの場所への外出も行っていきたいです。
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	出来ること、出来ないこと、個人の能力に応じて入居者様同士も支えあっています。職員もその様な関係作りに努めています。		特に重度の入居者様が孤立しない関係を築いていきたいです。関係構築のための職員のケアのありかたも、考えていきたいです。
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や在宅復帰した際などもご家族の相談には対応しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から入居者様の希望、思いを知るよう努めています。困難な場合はご家族の協力によりご本人の意に添えるよう努めています		見えていない思いや、自ら訴えの出来ない方の思いの把握に努めていきたいです。
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族の情報により把握に努めています。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中での個々の能力の把握に努めています。急な変化の際はその都度カンファレンスを開き対応しています。		発揮出来る能力が他にまだないのかを日々の生活の中で見つけていきたいです。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、入居者主体の介護計画が作れるように、ご本人、ご家族、職員が意見、アイデアを出し合って話し合いを行い、介護計画に反映しています。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回のケアカンファレンスで、ケアのあり方等、細かく話合っています。定期的なモニタリング、見直し以外でも、変化があれば随時計画を作成しています。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は事実だけでなく、ケアスタッフの気づきや、アイデア、今後の課題等も積極的に記入し、介護計画の見直しや、ケアカンファレンスに役立てています。日誌、申し送りノートを用いて情報の共有に努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の地域交流スペースや、和みスペース、カラオケルームを活用してのイベント、気分転換、特殊浴槽の使用など、ご本人の状況や嗜好、ご家族の希望に添えるように対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設施設と共に近隣の学校と慰問行事などで、交流をしています。消防訓練には入居者様も参加して、指導を頂いています。		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、そのような意向のある入居者様がない為、実施していません。		今後、希望があれば、柔軟に対応していきたいです。
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、センターの役割など、ご家族にも説明して頂き、適宜アドバイスを頂いています。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に併設のクリニックの医師をかかりつけ医として頂いている為、入居前、契約時などに説明を行い、ご本人、ご家族に同意、納得を頂いています。月2回の往診、必要な場合は他の病院への受診など、ご家族の希望やご本人の状況に応じて、医師と話し合いをしています。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設のクリニックの医師と常に相談し、必要な場合は専門医への受診をしています。内服の調整等、医療面も個別に支援を行っています。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師に健康管理について、普段から相談をして、助言をいただいています。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時はこまめに様子を見に伺い、入院先の医師や看護師と相談しています。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りの指針を公布して説明、同意を得ています。状況に応じて、医師、ご家族、スタッフと何度も話し合いを行い、時に応じた意向の確認を行っています。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人の状況に応じてご家族、医師、看護師、ケアスタッフで重度化、終末期にどの様に対応するのか、今後起こりうる状況など話し合い、個別に検討をしています。結果を介護計画に反映し、関係者と連携した支援を行っています。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前にご本人やご家族、他事業者と協議し、必要な情報や、書類を提供しています。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー、言葉かけについては常に気を配っています。記録物、個人情報はステーションの外へは持ち出さず見えにくい場所に配置しています。		声かけや、職員同士の会話などにも気をつけていきたいです。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常的にいろいろな事を入居者様と相談しながら決定しています。一人ひとりの嗜好をふまえつつ、判断力、表現力に応じた質問、選択肢を用意し、自己決定を促しています。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムを大切にしています。入居者様の希望や、予定にあわせて、職員の動きを変えています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々の支援やご家族との相談から、ご本人の希望や好みを把握し、一人ひとりの髪型や服装が、好みのものになる様気を配っています。ご家族協力のもと、馴染みの美容室に通っている方もいます。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けまで、できる方には力を発揮して頂いています。毎日のメニューから、買い物まで入居者の好みや希望を反映しています。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	あくまで、個人の好みを大切にしています。一人ひとりの嗜好を日常的に楽しんで頂いています。		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターン表を作成し、ご本人に何が一番適しているのかを日々検討しています。出来る限りトイレでの排泄支援を行っています		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別に対応しています。能力に応じて希望の入浴時間、タイミングで楽しんでいただいています。		朝や夜間入浴も実施しています。入浴拒否のある方の快適な支援方法を探っていきたいです。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間はそれぞれの入居者のスタイルにあわせています。ソファや和室など日々の状況に応じて休息できるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や好みに合わせて楽しみを持ち、それを継続できるよう支援しています。		プランターでの園芸、編み物、散歩、体操、オセロ、外出など、個別に行っている支援を今後も充実させていきたいです。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の管理能力にかなり差がありますが、能力に応じて、お金を所持し、使用して頂いています。		
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、日によって変わりますが、個々の希望に応じて外出支援をしています。		希望を表出できない方も、習慣や好みに応じ、日常のケアから感じ取り、さらに実践していきたいです。
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や公園など個別での支援を行っています。お墓参りや旅行などもご家族と相談し、協力していただいています。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しつつ、郵便物のやり取りや電話の支援をしています。外部との関係性を維持するため、能力に応じたの支援を行っています。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎日面会に見えるご家族もいます。面会時間はありますが連絡頂ければ、柔軟に対応しています。居室、リビング等、好みの場所でゆっくり過ごしていただいています。		
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてすべての職員が理解をして拘束をしないケアに取り組んでおり、今のところその必要もなく、今後もその方針は変えません。		身体拘束に関する内部研修を行っていますが、今後も更なる理解のため、職員間で勉強をしていきたいです。
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関施錠の弊害を理解し、夜間以外施錠していません。居室の窓なども自由に開閉できます。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は常に行っています。施錠をしていない為、ご本人の精神状態に応じ危険を察知した時は、スタッフ間での情報共有に努めています。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に応じたの配慮を行っています。危険だから排除するのではなく、置くためにはどうしたらよいか、という視点から検討しています。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を起票し、必要性に応じてカンファレンスを開き、事故防止に努めています。原因、対応策など、個々の入居者別に検討し、職員間で把握し、再発防止に努めています。		今後は、ヒヤリハット報告書をさらに活用し、職員間で事故を未然に防げるように注意をしていきたいです。
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	学んではいるが、定期的な訓練はしていません。		内部、外部研修に参加し訓練を行いたいです。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は実施していますが、地域協力の働きかけは行っていません。		町会や地域包括支援センターと協議し、今後検討したいです。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	こまめな現状報告を行い、随時ご家族との話し合いを持つようにしています。状況変化に応じて、予測されるリスクもお話し、対応策などの実施の際、協力していただいています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気になる点などは些細なことでも職員同士で話し合い、観察しています。変化や異常の兆候があれば、看護師、医師と相談し対応しています。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書は職員がすぐに見れるようになっています。また、処方内容の変更や、観察のポイント等は、随時申し送りをし、個別記録に記載しています。不明な点は医師、看護師に必ず確認をしています。薬を色分けし、誤薬防止に努めています。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の食品やヨーグルトを積極的に取り入れています。水分摂取や運動量にも気を配り緩下剤の使用は最小限に留める努力をしています。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人のペースに合わせて行っています。一人で行える部分は一人で、不足な部分は職員がおこなっています。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録し、確認しています。一人ひとりの嗜好にあわせ食べたいもの、食べられるものを提供しています。時間、メニュー、形状、摂取量の調節などを変え、状態に応じた支援を心がけています。		可能な限り、形状や、メニュー内容は個別に対応しています。一人ひとりの嗜好に合わせる努力を今後も続けていきたいです。
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内で感染マニュアルを作成しています。発生時はマニュアルだけでなく、スタッフの感染症に対する理解を深めると共に、入居者の状態に応じて対策が取れるように話し合いを行っています。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	湯のみ、まな板、包丁、お絞りなどは毎日消毒を行っています。毎日買い物に出かけ、新鮮な食材を提供しています。生ものの持ち帰りの際は保冷バッグを使用するなど気をつけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1) 居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花、植木、絵など飾り、明るい雰囲気になるよう努めています。明るさにも気を使っています。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と話し合い、掲示物や花などがざっています。入居者様の好みや、話題性などにも気を使っています。リビングは季節や行事を感じる装飾が出来るよう配慮しています。		季節の植物など、入居者様の好むものをより多く取り入れ、居心地の良さを感じていただける空間作りを行いたいです。
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、談話室のソファ、リビングのチェアなど、それぞれのお気に入りの場所があり、入居者同士の交流の場にもなっています。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた馴染みの家具を持参して頂き、家族の写真など飾っています。居室レイアウトも安全に配慮しつつ、自宅に近いものになるよう考慮しています。		ご本人の居室が居心地の良い場所、ご自分の居場所と思えるようにしていきたいです。
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際に換気を行い、室温に関しても適宜調節しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーの設計で、ほとんどが天井からのつり扉になっています。トイレやお風呂にも手すりがついています。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お風呂やキッチンなどの小物にも、入居者様にわかりやすい表示を心がけています。さりげなく季節感を出せるように心がけています。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の花や野菜をプランターや畑で育てたり、観賞して楽しんでいます。バルコニーは洗濯干しから、散歩、日光浴、食事会にも使用しています。		

(様式1)

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者がこころへ出かけている 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(日々の実践の中で、ホームとして力をいれて取り組んでいることやアピールしたいことを記入)

・重度化が進んでいるが、入居者同士やスタッフとの関わりの中で喜怒哀楽を共にし、笑顔の絶えないケアをすることに力を入れています。

・スタッフは一人ひとりの入居者の生活ペースに合わせて支援する事を大切にしています。集団をケアするのではなく、一人ひとりとは別の人間であり、その求める支援も個別に違うことを前提に、一つ一つに丁寧に対応しています。

・症状が進行しても沢山の可能性があり、スタッフと入居者が色々な事を共に行うことで、それらを発見し活かせる生活を目標にしています。

・スタッフは介助をするという一方的な立場ではなく、入居者と支え、支えられるという、双方向の関係性と、共に生活をする人間という関係を築くために日々努力しています。